



©Hideki Otsuka

シューベルトの録音

シューベルト最後のピアノソナタ3部作のレコーディングを5月25日から29日までの5日間、軽井沢大賀ホールで行いました。第19番、20番、21番の録音です。何としても第1楽章の提示部の繰り返しはしたいと思っていたので演奏時間も長く、第19番は35分弱、第20番と第21番は45分弱。2枚組CDに収まる予定です。

5日間の録音と聞くと、時間的

にはかなり余裕があると感じる方が多いのではないのでしょうか。でも実は、私は、大曲3曲の録音なので、時間が足りないのではと怖れていました。

録音はコンサートとは違い、すぐに収録を開始できるわけではありません。マイクのセッティングやピアノの調律など各種の準備があり、それらが終わってやっと「音決め」が始まります。舞台上でピ

小山実稚恵 — 148 ピアノと私

公演情報

『第12回 こどもの夢ひろば“ボレロ”』
～つながる・集まる・羽ばたく～

8月1日(土) 11:15 / 14:30

日立システムズホール仙台 コンサートホール

8月2日(日) 11:15 / 14:30

日立システムズホール仙台 コンサートホール

ラヴェル：ボレロ（編曲版）ほか

問い合わせ：仙台・杜の響きコンサート

☎022-302-3344

アノを弾きながら、私が直に聴いている音とミキシングルームでマイクを通して録音された音の印象やイメージが違っていかないか？実際に舞台上で聴く音と、録音された音質に違和感はないか？などのチェックをし、エンジニアやプロデューサーの方達と意見を交わし合い、微調整を何度か行つて最終的な「音決め」となります。

今回もかなりの時間を割いての初日の「音決め」でしたので、実質は中3日のフル録音、そして最終日の確認録音で、あつという間の5日間でした。

CDとライブ録音は全く違います。昨年の10月にサントリーホールでラフマニノフのピアノ協奏曲第2番を録音（東フィル・指揮ドミトリー・ユロフスキー）したのですが、ライブですから200

0人の聴衆がいるわけです。1回きりの本番がライブCDとなるわけですから、本番ならではの集中力と気持ち、会場の空気が聴き手に伝わるかどうか勝負です。

それに対して通常のCDは、聴き手が好きな作品を聴きたい時間に聴くものです。聴き手はみな違う条件の中で聴くわけです。だから本番の勢いとは違う、ある意味での部位の綿密な設計が必要になってきます。耳をそばだてていろいろな角度から音を聴こうとする人にも感動してもらえような、納得のいく録音にしたいと願うわけです。時には自分自身が聴き手になった気持ちを想像しながら、納得ゆくまで演奏を重ね、それを編集して作品を作り上げる。録音そのものが「演奏作品」なのです。

3曲のシューベルトのピアノソナタの美しさは、言葉では到底説明できません。美しいフレーズが幾度も繰り返しられ、知らぬうちに永遠の世界へと引きずり込まれてしまう。同じなのに違う感情。一見変わらないけれど、移り変わっていく感情。その極々わずかな違いに心の震えが止まりません。CDは10月28日にリリースの予定です。



KOYAMA MICHIE 東京藝大卒、同大学院修了。1982年チャイコフスキー国際コンクール第3位。85年ショパン国際ピアノコンクール第4位。「12年間・24回リサイタルシリーズ」(2006～17年)や「ベートーヴェン、そして…」(19～21年)は、その演奏と企画性で高い評価を受けた。2022年より、サントリーホール・シリーズ「Concerto〈以心伝心〉」に続き、ソロ・リサイタルのシリーズ〈未来永劫〉を開催する。ショパン、チャイコフスキーの二大コンクールなどの審査員も務める。17年度紫綬褒章を受章。仙台での「こどもの夢ひろば」のゼネラル・プロデューサーを務める。